

広島市立広島工業高等学校

平和の板金術師

高校生ボランティア・アワード
2022

『ものづくり』から『へいわづくり』へ ～広島の工業高校生の平和活動への取り組み～

【活動概要】

平和都市広島の工業高校生が習得した技能・技術を活用して、銅板で製作した折り鶴を平和活動のために寄贈しています。

【活動実績】

2009年度（平成21年度）

広島市長を表敬訪問される方へ記念品として「銅板折り鶴」を寄贈

2010年度（平成22年度）

「ノーベル平和受賞者世界サミット2010広島」の受賞者に対して手渡しで贈呈

2013年度（平成25年度）

ピースデパートで売り上げた一部を「広島市原爆ドーム保存事業基金」に寄与（以降継続中）

2015年度（平成27年度）

原爆投下から70年目の平和都市広島で、銅板千羽鶴を製作し、折り鶴の子の像に献納（現在、広島市中央図書館に展示）

2016年度（平成28年度）

国連軍縮フェローズに参加した27か国外交官へ贈呈（以降継続中、現在コロナ関係で中断）

2017年度（平成29年度）

「グローバルスクール in Hiroshima 2017」に参加した4か国6地域の高校生に贈呈

ICANのベアトリス・フィン事務局長へ記念品として贈呈

2019年度（平成31年度）

カトリック広島司教区の屋根材を使用して「銅板折り鶴」を製作し来広されたローマ教皇へ記念品として贈呈

2020年度（令和2年度）

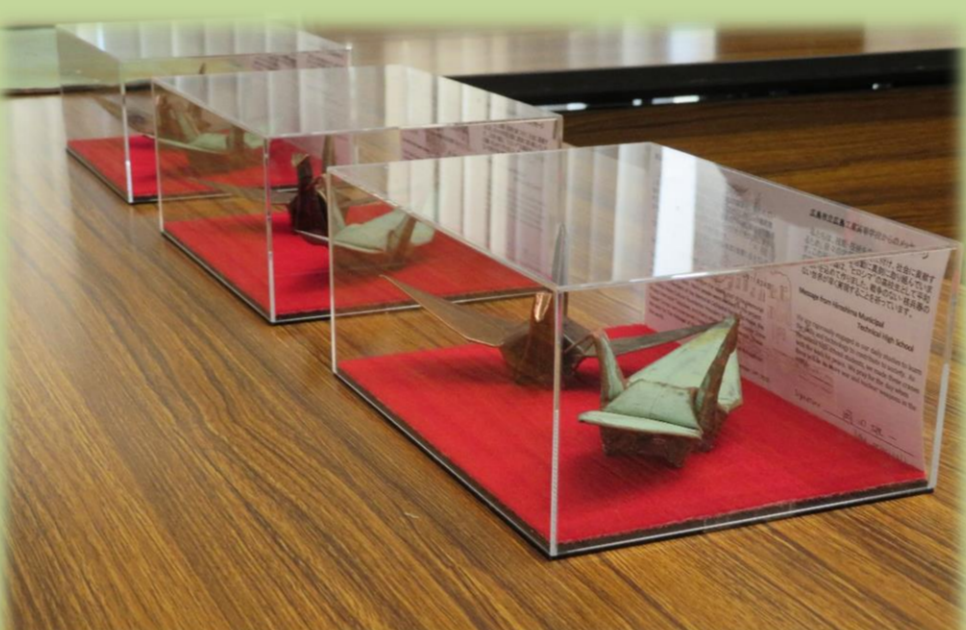
国際平和のための対話イベント「NU75 in HIROSHIMA」に参加された国連事務次長中満泉氏に記念品として贈呈



「ノーベル平和受賞者世界サミット2010広島」の受賞者に贈呈



「銅板千羽鶴」を献納



カトリック広島司教区の屋根材を使用した「銅板折り鶴」



ICANのベアトリス・フィン事務局長へ記念品として贈呈

活動目的 『叶える』

本校では、私たちが習得した技能・技術を活用して、教育や社会に貢献するプロジェクト『広島市工 サイエンス工房』が、平成27年度に発足しました。

「こんなモノが欲しい」

「こんなモノを作って欲しい」

など、校外からものづくりの依頼を受け、担当する工業科や部を決め、科目「課題研究」や部活動として、毎年継続して取り組んでいます。これまでに依頼され、寄贈した作品は

- ①修繕車椅子（ネパールへ寄贈）
- ②3Dプリンターで製作したフェイスシールド（広島市医師会耳鼻科医会へ寄贈）
- ③キャスター付きおみこし台（仁保新町町内会より依頼）
- ④窓清掃訓練用アルミサッシ（広島市立広島特別支援学校より依頼）
- ⑤理科教材CO2計測装置（広島市内の小中学校へ寄贈）
- ⑥木製靴入れ（広島市立幼稚園より依頼）
- ⑦朝礼台への手すりの取り付け（広島県立広島中央特別支援学校より依頼）

などです。「銅板折り鶴」も校外から多くの依頼を受け、製作に取り組んでいます。生徒はものづくりを通じて、学んできた技能・技術を発揮すると共に、社会貢献に力を注いでいます。



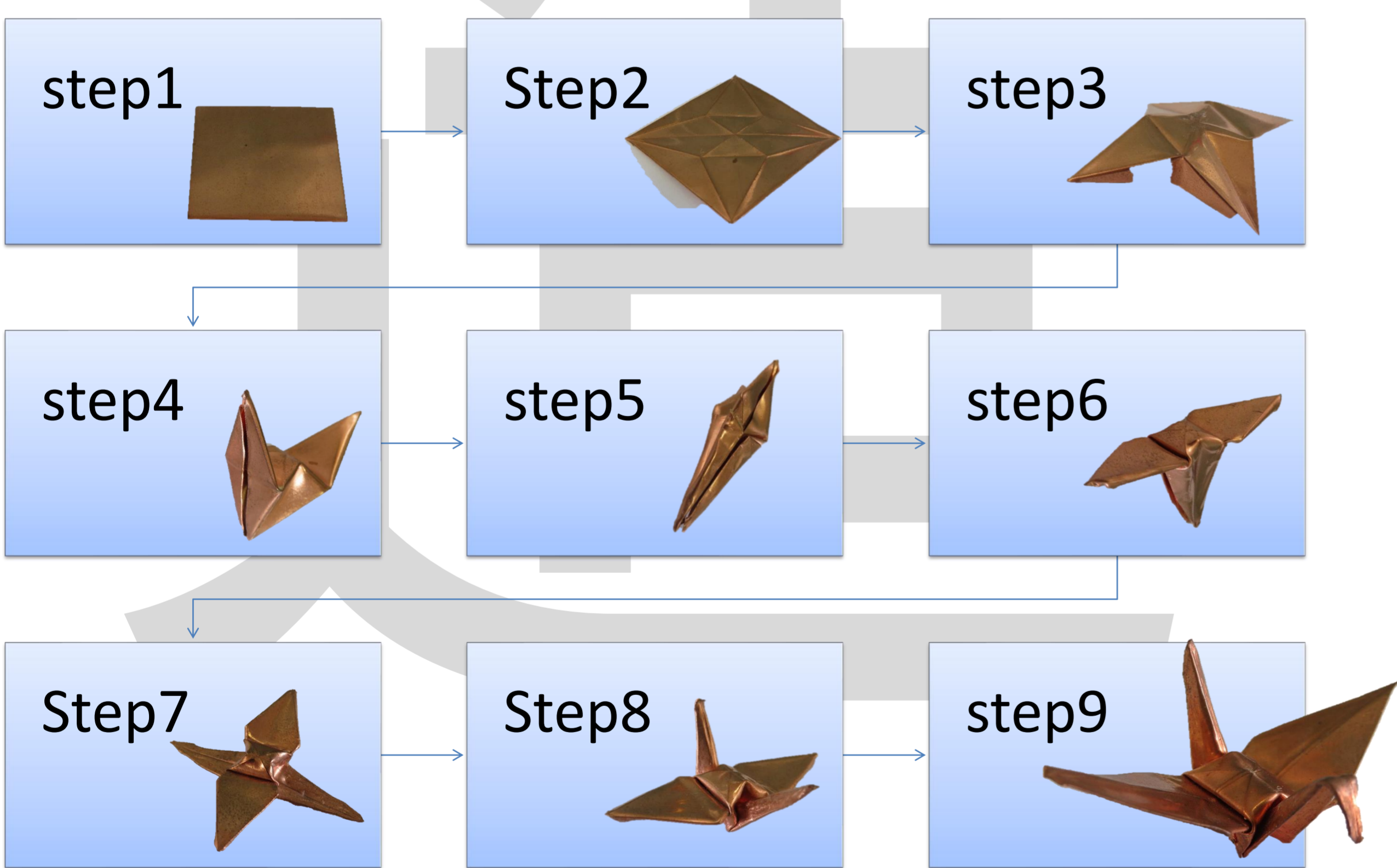
広島市に寄贈したときの記念写真



国連軍縮フェローズの団長へ贈呈

製作工程 『造る』

「銅板折り鶴」は、一枚の銅板を多くの工具を使って、手作業で紙のように加工して製作しています。銅板での折り鶴には様々な製作方法がありますが、本校が行う方法の特徴は、切削工程（材料取りを行う作業は除く）がないということです。主に曲げる、叩く、伸ばすといった工程が多く、普段工業高校では使用しない工具もあり、コツをつかむまではかなりの時間を要します。また完成度の高い銅板折り鶴に仕上げるには、幾度となく失敗を繰り返し、経験を重ねながら技術を習得することが必要です。



活動内容 『伝える』

3年生の「課題研究」で、ものづくりを通じて社会貢献をしようと、毎年、参加を希望する生徒がいます。一日でも早く技術を習得しようと努力を惜みず、試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。いくつかの苦難を乗り越え、完成した時の喜びは、ひとえに感無量の「達成感」しかありません。この完成した「銅板折り鶴」がより多くの方の手に届いて欲しいと、日々練習を重ね、製作に取り組んでいます。また近年は、本校生徒だけが製作するのではなく、いろいろな方に製作に携わってもらおうと、校内外の各種イベントで、高校生が指導役となって、一般の方にも製作に参加していただける機会をつくっています。なかなか見栄えの良いモノはできませんが、完成した「折り鶴」を手にとったときの喜びは格別で、製作した方も指導役の高校生も満面の笑みを浮かべています。子どもから大人まで、年齢や職業も多様な方々に体験をしていただき、本校生徒の活動の様子を、市民の方々に広く知っていただく貴重な機会になっています。今後も、多くの方に喜びを伝えていけるこの活動を続けていきたいと思っています。

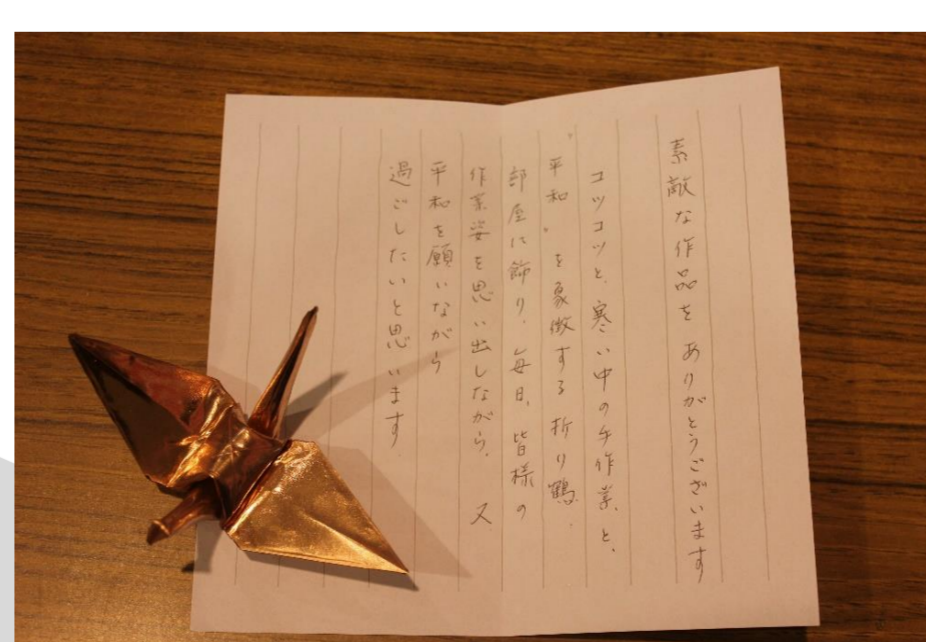


活動目標 『繋ぐ』

過去・現在・未来と長年この取り組みを続けてきました。多くの方との出会いがありました。ボランティア活動の一環として行ってきたこの活動も、金銭で得るモノではなく、多くの方の支援を受け、そして力添えがあったからこそ、続けられた取り組みだと感じています。

「ものづくり」から取り組んできたことが、今は「へいわづくり」へと変化しつつあります。小さいことからコツコツと行ってきたことが実を結ぼうとしています。

これからも多くの先輩方が築き上げたものを、より一層深めると共に、多くの方の出会いに感謝しながら、後輩達へ継承していくことが、これからの繋がりであり、大切なことだと感じています。



一般市民からの心温まるお手紙
素敵な作品をありがとうと「ございませす。
コツコツと寒い中の手作業と平和を象徴する折り鶴と部屋に飾り、毎日、皆様の作業姿を思い出しながら、又平和を願いながら、又過ごしたいと思ひます。



PROFILE

平和の板金術師

有限会社広陽板金の高澤浩子さんの協力・支援を得て、平成17年度より「課題研究」の一つとして活動を開始。ものづくりを通じて平和活動に貢献し、現在まで至る。17年に渡り100名以上の生徒が携わり、祈りを込めた銅板折り鶴を製作し、多くの方の手に飛び立った。「平和の板金術師」とは、広島の工業高校生が一生懸命製作する姿を見て呼ばれるようになったのが由来である。今年度も7名の生徒がこの活動に参加している。

